かくのごとし、

〔萬代和歌集十戀〕占戀といふことを　修理大夫顯季

よゐ〳〵につげのをぐしのうらをしてつれなき人をなをたのむかな

○按ズルニ、夕占ノ事ハ、神祇部雜占篇ニ在リ、參看スベシ、

櫛產地

〔毛吹草三〕山城　櫛硯細工　和泉　コギ櫛　攝津　築嶋櫛　伊勢　山田櫛　長門

櫛大閤薩摩入之時、天下一ニ號、　紀伊　ユスノ木櫛ニ用　薩摩　黃楊木櫛ニ用之

〔諸國名產往來〕諸國名物盡

伊勢　櫛　長門　長府櫛　薩摩　藤櫛

〔後撰和歌集十五雜〕女ともだちのもとにつくしよりさしぐしを心ざすとて、　大江玉淵朝臣女

なにはがたなにゝもあらずみをつくしふかき心のゑるしばかりぞ

〔七十一番歌合中〕四十二番　右　櫛挽

出やらでいとゞ心を筑紫櫛はわけの月に山風もがな

櫛工

〔延喜式十五內藏〕雜作手卅三人　造御櫛手二人

〔七十一番歌合中〕四十二番　右　櫛挽

いかにせん逢ことかたきゆすの木の我にひかれぬ人の心を

〔雍州府志七土產〕櫛篦　處々造之、其內京極二條北、舟木屋之所作爲良、舟木長門國、而所造櫛之黃楊木、幷伊須木之所產也、近世或又以玳瑁象牙造之、

〔人倫訓蒙圖彙五〕櫛挽○中略　京櫛挽、寺町通押小路の下、舟木長門、其外所々にあり、伊須の木長門より出、此木を舟木と號す、